



これはなんでしょう



◎ヒント 赤・青・黄色とガラスの中は色とりどり。色のないのも洪いですね。そういえば、ラムネの中にもこれが。

答えについての思い出などもお待ちしています。

しめきり 2月20日

あて先 〒783 南国市大埔甲二三〇

一 南国市役所広報委員会 親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所、氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品 正解者の中から抽選で五人に図書券を進呈

第20回当選者発表 (敬称略)

細川鈴加(十市) 門田奈実可(久礼田)

岡林りさ(東崎) 蒲原あかり(大埔甲)

水野しづ(岡豊町定林寺)

◎第20回親子クイズの答えはコマでした。今回は六十七通の応募がありました。お便りにあった皆さんの思い出の一部をご紹介します。

○蒲原あかり(大埔甲)

昨年、父がどんでんコマを作ってくれました。私のマスケットです。

○竹田京子(東崎)

木でできているおもちゃにはなげかめくもりを感じますね。十八歳になる長男も、小さいころにはコマやけん玉等で遊んだものです。現在は見向きもされずおもちゃ箱の中です。

○西山幸(下末松)

コマを回すのは、とてもこつがいて、難しいものでした。曲芸師的にいろいろな男の子たちがいましたが、今はどうでしょうか。

○森田武一(後免町)

正月、売り初めまで待って母が買ってくれた。早く欲しかったがなかなか買ってもらえなかった。数万円のお年玉をもらう今の子供よりもずっとうれしかったのだ。

○宮地豊茂(浜改田)

昔は上の周りに幅一センチの金の鉢巻きをしてありまして、コマどうしのけり合いをしたものです。また、使うときは木が乾いて金がゆるくなりまですの水の中へつけて使ったことが記憶にあります。

あゆみ しかり方

家庭教育学級専任講師 田植 静代

一年生の和男は鉄道のわきにある自分の家の庭で、一人で遊んでいました。父親が入ってきて、和男に「今晩はお鉄道は、家の東側の土手の上を走っています。」と、土手をはい登って小石を線路上に置きました。

和男はふつと線路に石を置いておいたら、どんなに砕けるか知りたいて考えて、土手をはい登って小石を線路上に置きました。

幸いなことに小石は事前に発見され何事も起こりませんでした。

両親と和男が鉄道公安室に呼び出され、嚴重な注意を受けたのは当然のことです。けれど和男には身にしみる罪の意識はありません。父親はこのことの重大さを、和男にどう分からせるか悩みました。

泣きわめく和男を物置に入れた父親は、しばらくして泣きじやくる和男の両肩に手をかけ、小石を線路に置くことがいかに恐ろしいことか、たくさんの人々の生命の問題であることを話し、今晩は夕食は食べれない、またこの物置から出てはならないと命じました。

和男は物置に錠をかけられ、長いこと泣いていましたが、泣き疲れて座り込んでしまいました。外はもうすっかり暮れていました。

物置の戸が開いた、和男は許しても

らえると思ひ戸口を見ました。すると父親が入ってきて、和男に「今晩はお父さんも、お前といっしょに罰を受けるのだ」と言って、和男の前に座りました。そして和男とともに夕食を抜き

一晩中物置に座ったのです。和男は今度の事件がいかにたいへんなことなのか、もう二度としてはならないと、強く強く心に刻み込みました。なぜ親は子をしかるのか、どんなときにするのか、どのようにしかるのでしょうか。

それは子供がこれからの社会生活をするうえで、当然身につけておかねばならない行動や、道徳的判断ができない場合に、親は子をしかるのでしょうか。

ところが案外親のしかり方は、親の気持ちしだいで左右されたり、感情的になりやすいものです。ある時は厳しくしかり、ある時は同じことでも、少しもしからなかったりします。

しかり方には一貫性が欲しいし、真の愛情が欲しいものです。和男の父は、自分も子の痛みを分けあいながら、子に善悪の判断を迫ったからこそ、子は身にしみて反省できたのです。しかることも親の真剣さが勝負します。

物置の戸が開いた、和男は許しても